

第5回全員発表研修会

1番バッターを経験して

日時：平成22年7月18日(日)・19日(月)

場所：熱海／ニューフジヤホテル

大野 素史 (静岡県)



平成22年7月18、19日に当会恒例の全員発表会が開催されました。

第5回という節目にあたり今年会場を熱海に移し開催されました。熱海といえば、以前もニューフジヤホテルで行われたことを記憶しています。その時は前日からの豪雨により各交通機関が寸断され、中止になるのではないかと思われましたが、6時間遅れの夕方から徹夜の発表会になったことを懐かしく思い出します。執行部のこの発表会に対する情熱と各会員の歯科インプラントへの真摯な思いが感じられた発表会でした。

今年は新会員も増えエントリーも100演題を超えておりました。当日は関東・甲信越が梅雨明けし、勢力を増した太平洋高気圧に覆われた晴天のまさしく学会日和でした。

今回の発表会の感想を述べたいと思います。

1週間前に抄録が届きましたがなかなか自分の名前が見つかりません。もう一度見直しましたら、なんと演題番号が1番になっています。緊張が走りました。プレッシャー。朝一で失敗したり、





内容がなかったりしたら、それ以降の会場の雰囲気に影響するのではと考えたのです。自分も当会の発表4分、質問2分の形式には慣れていますが、内容をまとめ4分以内にメッセージを伝えるのは難しく内容を充実させようとするとはまとまらない経験がありました。いざ編集しようとするとな心の写真がなかったりという経験もしました。

しかし、1番バッターになったという事は臨床研修会でも少し認められてきて光栄なことだと前向きに考えプレゼンテーションの整理をしました。写真のクオリティーは良いと思いますし、症例の出来もそこそこだと思います。「審美的インプラントの必要条件」という大きなテーマを題材にした為、伝わりにくいところがあったことが反省点でした。

本質的にすばらしい症例発表というのは、経

過を少なくとも5年は追って、そのフォローをしているものがすばらしいものではないかと感じました。そういう意味では、術後経過が長くしっかり比較検討しうる資料の残った症例を発表できるように管理していくことに努力したいと感じました。「どうだ症例」に傾向しないようにしたいと感じました。

全体のメッセージを拝聴した傾向としては、予知性、永続性が大切だというのが多かったような気がします。クインテッセンス社編集長の山形氏の「自分がもしもインプラント治療を受けるならどの治療法を選択するか？」という講演でも永続性の高い治療法を選択するというメッセージが印象的でした。やはり患者様の、時代の要求しているものはそこにあると感じました。

1年後にはまた少し成長してこの発表会に臨みたいと感じホテルを後にしました。



